



日本統計学会 会報 2020.1.30

No. 182

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—山下 智志 (理事長) / 玉置 健一郎 (庶務理事)
小池 祐太 (広報理事) / 明石 郁哉 (広報委員)
鎌谷 研吾 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1. 巻頭随筆：日本統計学会会報巻頭言田中周二... 1	6. 2019年6月統計検定の成績優秀者川崎 茂・山下智志... 11
2. 2019年度統計関連学会連合大会の報告中川重和・竹村彰通・桜井裕仁... 3	7. 統計検定合格者の声.....川崎 茂・山下智志... 11
3. 2020年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報)藤野友和・山本義郎・富田 誠... 7	8. 理事会・委員会報告(2019年11月8日)..... 17
4. 第14回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)山下智志・稲葉由之ほか... 7	9. 学会会員であることのメリットとは？川崎 茂... 19
5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集山下智志... 8	10. 新刊紹介..... 21
	11. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報... 21
	12. 学会事務局から..... 21
	13. 投稿のお願い..... 22

1. 日本統計学会会報巻頭

田中 周二 (日本大学 文理学部 数学科 教授)

栄えある日本統計学会会報に寄稿させていただくことになり、大変恐縮しております。私がここで統計学会の会員の皆様にお伝えすることがあるとすれば、保険会社の職歴の中で様々な分野のアクチュアリー業務を体験したことと大学のアクチュアリーコースで10年余り教鞭をとっていたので、統計学との関わりについて皆様の関心のありそうな話題が提供できるかもしれないということだろうと思います。

さて、アクチュアリーとは、日本アクチュアリー会のホームページでは、「確率・統計などの手法を用いて不確定な事象を扱う数理のプロフェッショナル」と紹介されています。日本のアクチュアリー候補生の多くは、大学卒業後、保険会社(生保や損保)や信託銀行に入社して、職業的な

訓練を受けつつ、前期5科目、後期は生保、損保、年金の各分野2科目の資格試験に合格して「正会員」という一人前のアクチュアリーという専門職になるという道筋を経ることになります。

歴史を辿ると、アクチュアリーの誕生はイギリスの生命保険業であり、ジェームズ・ドドソン (James Dodson, 1705~1757) という、数学者から、初めての近代的生命保険会社エクイタブル社の創業者になった人物が実務家としての初のアクチュアリーではないかと考えられています。その当時から、生命保険会社(共済)は存在していたものの粗製乱造で、記録によれば設立された会社は長く存続することはなく評判も良くなかったようです。ドドソンは、その中の一つ、Amicable Life Assurance Societyに保険契約を申し込んだ当時、

年齢を理由に謝絶され、それが Equitable Life Assurance Society の設立に繋がったとされています。どこが、新しかったかという点、当時、ようやく人口統計、とくに生命表についての理論や統計データが揃った時代でした。また、その頃には、複利法も良く知られており、これらを組み合わせて生命年金の価格を計算して見せたのがエドモンド・ハレー (Edmond Halley, 1656~1742) でした。ハレーはハレー彗星でも有名な天文学者でしたが、保険数理の理論家として、現ポーランドにあるブラスレウ市の人口と死亡統計にもとづいて生命表を作成し、その手法や形式は現在に、ほぼ引き継がれています。

これを生命保険に応用して年齢別の平準保険料を「発明」したのがドドソンの慧眼であり、この設計が、その後の生命保険の発展に繋がったと評価できます。なお、保険数理の担当者にアクチュアリーという名称を与えたのは、ドドソンの後任のロウ・モーレス (Edward Rowe Mores, 1731~1778) でした。アクチュアリーは、原義は「ローマ帝国の元老院議事録の編纂を担当する事務局長」の意味を持つ言葉でしたが、当時は「教会裁判所の決議や法令を記録する書記役」として使われていたようです。

もう一つの発明は、保険会社が保有すべき資産の理論値を保険数理の責任準備金として明確化したことです。生命保険は、一般に超長期の契約ですから、平準保険料 (契約期間で平均した保険料) では契約前半では余剰が出ているように見えます。しかし、それは契約後半の死亡保険金の支払いのために留保しなければならないので、これを費消してはいけません。この保険特有の責任準備金評価のために生保決算方式が生まれ、その決算の責任者としての「保険計理人」が誕生したのでした。

さて、このような生命保険に必要な統計学・確率論を集大成したのが生命保険数学という分野でした。イギリスのアクチュアリーの黎明期に生まれた保険数学は、生命保険業が世界的に拡大してゆく中で、それぞれの国情に従って多少の差はあ

りつつも類似の保険数学による経営管理が行われるようになって行ったのです。イギリス、アメリカ、ヨーロッパ諸国、日本など全世界にアクチュアリー会が設立され、試験制度もそれぞれの国で実施されるようになりました。その中核となるのは、死亡率や障害率などの基礎統計と生命表などの作表、および保険料や責任準備金の計算方法です。

このような古典的な保険数学による経営管理システムは、日本では経済や金利が安定していた1980年代頃には多くの商品で予定利率は5.5%で固定されており、一方、死亡率は寿命の伸びによって年々、低下したため保険料の低下が続き、うまく機能していました。しかしその後は、バブル崩壊後の金利の急低下によって逆ザヤが続き、システムの限界が露呈してきました。結果として、予定利率はその後、何回も引き下げられ、同時に保険料率も引き上げられたため伝統的な死亡保険の売り上げが減少し、代わりにがん保険や医療保険などが生命保険の保障の主力になって行きました。医療保険では入院率や入院日数など死亡率とは異なるデータを扱うため異なる統計手法やモデルの導入が促進されました。このようなリスクの多様化が保険数学の改革の一つの動因です。

もう一つの動因は、ソルベンシー規制や生命保険会計の透明性を求めるため責任準備金を市場価格ベースで評価しようという国際的な動きが強まってきたことです。固定的な予定利率ではなく、測定時点のイールドカーブによって割引を行い、適切なマージンを上乗せするという考え方は市場整合的評価として知られており、数理ファイナンスの成果が採り入れられます。

さらに、契約者がウェアラブル端末を装着し生体情報などのビッグデータを保険料計算に採り入れようとする健康増進保険も商品化されつつあります。

このように、保険数学は新たな枠組みで、大きく見直しされる過渡期にあります。そこに統計学やデータサイエンスの一つの応用分野があり、近未来の保険数学は大きな変化を遂げるものと予想

されます。これからも確率論や統計学の成果を採り入れながらアクチュアリー技術の進歩が図られることでしょう。

略歴

田中周二（たなか しゅうじ）

現職 日本大学文理学部 数学科教授（アクチュアリーコース）

1974年 日本生命保険入社，主計部，企業保険契約部，財務企画部，ニッセイ基礎研究所を経て

2006年 日本大学文理学部教授

2. 2019年度統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 中川 重和（岡山理科大学）

実行委員長 竹村 彰通（滋賀大学）

プログラム委員長 桜井 裕仁（大学入試センター）

2.1 大会概要報告

中川 重和（岡山理科大学）

2019年度統計関連学会連合大会は、2019年9月8日（日）～12日（木）に統計関連学会連合に所属する6学会（応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会）の主催，滋賀大学の共催により開催されました。8日はチュートリアルセッションと市民講演会が，9日～12日は本大会が滋賀大学・彦根キャンパスにて行われました。

昨年に引き続き大会開催期間を5日間で行いましたが，大きな問題もなく無事終了でき，大変嬉しく思います。参加者数は延べ1,114名（市民講演会参加者数174名，チュートリアル参加者数143名，本大会参加者数797名），講演件数は305件（キャンセルを除く）にのぼり，今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は，プレナリーセッション1件，特別企画セッション「産学連携によるデータサイエンス教育」6件，特別企画セッション「Transnational Data Science Education and Research」6件，企画セッション62件（ソフトウェア・デモンストレーションセッション3件を含む），一般セッション186件，コンペティションセッション44件でした。懇親会は11日の17：00から大津港発の琵琶湖クルージング船「ビアンカ」（滋賀県大津市）にて行われました。

なお，参加者は171名でした。

今回の大会が無事に終了し，また大会の円滑な運営を行うことができましたのも，ひとえに関係者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者，座長，企画セッションオーガナイザー，参加者の皆様に御礼を申し上げます。連合大会は今回で18回目を迎え，運営のノウハウも少しずつ蓄積されていますが，今年度も委員の負担軽減のため，一部の事務局業務について外部委託を行いました。6学会の会員の皆様のご理解に感謝申し上げます。最後に，岩崎組織委員長，竹村実行委員長，笹田同副委員長，桜井プログラム委員長，富田同副委員長，藤野友和運営副委員長をはじめ，ボランティアで活動してくださいました，実行委員，プログラム委員および運営委員の皆様，滋賀大学のアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

2.2 チュートリアルセッション・市民講演会報告

桜井 裕仁（大学入試センター）

今年度の連合大会も例年と同様にチュートリアルセッションから始まりました。今回は，9月8日（日）の午後に滋賀大学・彦根キャンパス大合併講義室にて「Selective Inference の理論と応用」というテーマで3時間のセッションが行われました。Selective Inference（選択的推測）は，データ

を見てから仮説を選択し同じデータを用いて統計的推測を行うという状況において、仮説選択のバイアスを補正するための新たなアプローチとして近年注目されています。本セッションでは、下平英寿教授（京都大学）をオーガナイザーとして、竹内一郎教授（名古屋工業大学）、寺田吉壱助教（大阪大学）、下平教授の3名が Selective Inference の基本的な考え方から最新の研究までを解説されました。

チュートリアルセッションに引き続き、同じ会場で1時間半の市民講演会が行われました。市民講演会では、毎年、様々な分野で統計科学を活用して活躍されている方々に多岐にわたる内容でご講演いただいています。今年度は感染症を専門とする岩田健太郎教授（神戸大学）に「数字の主観と意味について」というタイトルでご講演いただきました。本講演会では、岩田教授がこれまでに国内、アメリカ、中国で勤務された経験をもとに、医師としてさまざまな感染症とどのように向き合い、また、どのような対応をされてきたかなどについて具体例を交えて解説されました。

最後に、チュートリアルセッションと市民講演会の開催に際して、ご講演を快くお引き受けくださった4名の先生方に感謝申し上げます。

2.3 企画セッション報告

安藤 宗司（東京理科大学）

桜井 裕仁（大学入試センター）

連合大会2日目の9月9日（月）午前に、今年度も開会式に続けて組織委員会主催のプレナリーセッションが開催されました。今回は Peter Brockwell 教授（コロラド州立大学）に「CARMA processes: properties, applications and inference」というタイトルでご講演いただく予定でしたが、ご家庭の事情で来日できなくなりました。本セッションでは、Brockwell 教授に代わり、Brockwell 教授から送付いただいた講演スライドを用いて、松田安昌教授（東北大学）が講演をされました。また、10日（火）午後には特別企画セッション「産学連携によるデータサイエンス教育」が、11日

（水）午前と午後には特別企画セッション「Transnational Data Science Education and Research」がそれぞれ開催されました。本大会の期間中には、ソフトウェア・デモンストレーションセッションを含む16件の企画セッションが開催されました。今回開催された企画セッションのセッション名とオーガナイザー（敬称略）を以下に示します。

(01) 日本統計学会 会長講演、各賞授賞式および受賞者記念講演（西郷 浩（早稲田大学））

(02) 公的統計における指数作成方法の新しい展開（美添泰人（青山学院大学））

(03) 日本計量生物学会シンポジウム「疾患レジストリデータを活用する臨床試験デザインと統計解析法」（平川晃弘（東京大学）、安藤友紀（医薬品医療機器総合機構））

(04) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演（安藤友紀（医薬品医療機器総合機構）、五所正彦（筑波大学）、田栗正隆（横浜市立大学）、山本英晴（中外製薬））

(05) 応用統計学会企画セッション「関数データ解析」（二宮嘉行（統計数理研究所））

(06) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」（伊藤陽一（統計数理研究所）、田栗正隆（横浜市立大学））

(07) 応用統計学会学会賞授賞式、受賞者講演（青木 敏（神戸大学）、姫野哲人（滋賀大学））

(08) 日本計算機統計学会 企画セッション「高次元データ解析における計算機・理論統計の最新の展開」（廣瀬 慧（九州大学））

(09) 放射線リスク評価のための統計学（古川恭治（久留米大学）、柳川 堯（久留米大学））

(10) 大規模データの利活用におけるプライバシー保護の展開（佐井至道（岡山商科大学）、星野伸明（金沢大学）、伊藤伸介（中央大学））

(11) 日本統計学会統計教育委員会企画セッション「新しい学びの時代の入学試験における統計分野の現状と導入に向けて」（竹内光悦（実践女子大学）、藤井良宜（宮崎大学）、渡辺美智子（慶応

義塾大学))

(12) 地震ビッグデータ解析の最前線 (長尾大道 (東京大学), 加藤愛太郎 (東京大学), 矢野恵佑 (東京大学))

(13) 最適な動的治療レジメ推定のための統計的方法とその応用 (大前勝弘 (京都大学))

(14) 統計モデリングと機械学習で紐解く生命システムのダイナミクス (島村徹平 (名古屋大学), 新井田厚司 (東京大学), 白石友一 (国立がん研究センター))

(15) ミクロデータの利用技術と EBPM ((山下智志 (統計数理研究所))

(16) ソフトウェア・デモンストレーションセッション

2.4 コンペティションセッション報告

富田 誠 (横浜市立大学)

今年度は、9月9日(月)から9月11日(水)の3日間にわたって7つのコンペティションセッションが設けられました。全部で46件の発表申込がありました。同じ発表者による二重申し込み1件と年齢制限による辞退1件があり、審査対象となったのは44件でした。各発表の審査は、原則として8名の審査員が担当しました。審査員は各発表に対してA(4点)~E(0点)のスコアを与え、スコアの単純平均による順位によって最優秀報告賞と優秀報告賞を決定しました。

審査では、今年度もこれまでと同様に、研究内容とプレゼンテーションの双方が評価対象となりました。限られた時間で、専門外の人に対して、いかに自分の研究内容を報告するかということが重要な評価項目です。選考の結果、最優秀報告賞1件、優秀報告賞4件が選ばれ、9月12日(木)の12:10から表彰式を執り行いました。

最後に、審査員および座長をお引き受けいただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げますとともに、ご発表いただいた方々の研究が今後益々進展することを願っております。なお、今年度の表彰者は下記の通りです。

最優秀報告賞(1件)

早川 知志 (東京大・情報理工)

「スパースなパラメータ空間における深層ニューラルネットワークのミニマックス最適性および優位性について」

優秀報告賞(4件)

奥戸 道子 (東京大・情報理工)

「曲指数型分布族に対するE-plugin分布」

小西 啓介 (筑波大・数理物質科学)

「強スパイク固有値モデルにおける高次元共分散行列の推定」

坂東 拓馬 (東京大・情報理工)

「解の存在確率を考慮した経験尤度」

南 俊匠 (総合研究大学院大)

「A General Framework for Transfer Learning」

2.5 コンペティションセッション受賞者の言葉 最優秀報告賞

早川 知志 (東京大学)

この度は最優秀報告賞をいただき大変ありがとうございます。審査・大会運営をされた先生方に深く感謝いたします。またこの発表の元となった卒論執筆時の指導教官であり学会参加をサポートしてくださった鈴木大慈先生をはじめ、研究を支えてくださった方々に感謝します。

学会発表をするのはこの夏が初めてであり、初めての夏にこのように評価していただけてとても嬉しいです。本報告では、関数を推定する回帰問題において、深層学習と線形推定量のパフォーマンスを比較しました。特に、推定する関数集合のスパース性に注目して深層学習と線形推定量の予測誤差におけるミニマックスレートを導出し、深層学習の優位性を定量的に示しました。同時に、線形推定量が深層学習に比べて学習能力が低い理由をモデルの凸包を通して(既存研究も含めて)統一的に説明することに成功しました。今回の受賞を弾みに、これからもより一層研究に励んでいきたいと思っています。これからも御指導よろしくお願ひします。

優秀報告賞

坂東 拓馬（東京大学）

奥戸 道子（東京大学）

このたびはコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き、大変光栄に思います。企画および運営をされた先生方、審査にご参加くださった先生方、また日頃からお世話になっている研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。

本発表では、曲指数型分布族に対する予測分布の構成について、Extended plugin (E-plugin) 分布という新たなクラスを提案し、その情報幾何的な性質を報告しました。ベイズ予測分布との射影の関係などの幾何的に綺麗な結果が得られたほか、Kullback-Leibler リスクや計算量などの性能についても良い性質を持つことを示しました。

今回の受賞を励みに、今後も研究に取り組みたいと思います。ありがとうございました。

小西 啓介（筑波大学）

この度は、コンペティション講演において優秀報告賞をいただき、大変光栄に存じます。審査をはじめとして、大会の企画・運営をしてくださった関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。日頃から熱心に且つ厳格に指導して下さる青嶋誠先生、矢田和善先生、また発表練習にお付き合いいただいた青嶋研究室の皆様にも、心から感謝申し上げます。

本報告では、高次元小標本データの共分散行列に対して、新しい逆行列推定を与えました。高次元データの固有空間の構造を捉え、非スパース推定とスパース推定を組み合わせることにより、逆行列の新たな推定法を提案しました。高次元空間の幾何学的性質を利用することで、先行研究では得られなかった推定の一致性を示すことができます。今後の展望として、高次元データの path 解析に新たな理論を展開したいと考えております。

今回の受賞を励みに、統計学の発展に貢献できるよう、日々精進して参ります。今度ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

この度はコンペティションセッションにおいて、楽しく発表できたうえ、優秀報告賞という荣誉ある賞までいただいたことを大変嬉しく存じます。企画運営に携わられた先生方、ならびに講演を聴きに来て下さった方々に厚く御礼申し上げます。また、指導教員の清智也先生をはじめ、日頃らご指導いただいている皆様にご心より感謝申し上げます。

本報告では、経験尤度の新たな閾値選択手法を提案いたしました。経験尤度はノンパラメトリック推論手法の一つで、信頼区間の構成に広く応用されていますが、近似精度があまり良くないという問題があります。本研究では、「近似精度を悪くする量」をあらかじめ推定し、それを推論に組み込むことで近似精度が向上することを確認しました。

まだまだやれることはたくさんあると考えているので、本受賞を励みに日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

南 俊匠（総合研究大学院大学）

今回は優秀報告賞という荣誉ある賞をいただき、大変嬉しく思っております。今大会の運営関係者の皆様に感謝するとともに、日ごろ指導して下さっている先生方、発表に際して多くのコメントをくださった研究室の皆様にご心から感謝を申し上げます。

本報告で扱った転移学習という分野は、ある領域で獲得された知識を、別の領域での学習に再利用する技術であり、機械学習の次のステップの一つとして注目されています。本研究では、幅広い状況下でこの転移学習を行えるように、現在数多く提案されている転移学習の方法論のいくつかを包括した、統一的かつ簡潔なフレームワークを提案しました。

まだ数多くの課題が残っていると思いますが、今回の受賞を励みに今後も研究に尽力していきたいと思ひます。

3. 2020年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

運営委員長 藤野 友和（福岡女子大学）
実行委員長 山本 義郎（東海大学）
プログラム委員長 富田 誠（横浜市立大学）

1. 2020年度統計関連学会連合大会について

2020年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の主催により、下記要領にて開催いたします。

日程：2020年9月8日（火）～12日（土）

会場：富山国際会議場（<https://www.ticc.co.jp/>）
富山県民会館
（<https://www.bunka-toyama.jp/kenminkaikan/>）

9月8日：チュートリアルセッションおよび市民講演会

9月9日～12日：本大会（一般講演、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェア

セッションなど）

2. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション（4月上旬に締め切りを設定予定）、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会（kikaku2020（at）jfssa.jp）までお知らせください（（at）を@に置き換えてください）。企画セッションの公募は第二報（3月上旬発行予定）で、各種企画は第三報（5月上旬発行予定）で、それぞれお知らせする予定です。

4. 第14回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

山下 智志（日本統計学会理事長）

稲葉 由之、小山 慎介、田上 悠太、間野 修平、本橋 永至

（理事：大会・企画・行事担当）

阿部 貴行、岩崎 学、小野 陽子、小泉 和之、佐藤 彰洋、

田栗 正隆、土屋 隆裕、富田 誠、中谷 朋昭、汪 金芳（企画・行事委員会委員）

第14回日本統計学会春季集会を横浜市立大学にて開催いたします。プログラムは午前中に企画セッションを一つ、午後に4つの企画セッションを2つずつ並行する予定です。セッションおよびプログラムは確定し次第、春季集会 Web サイトにてアナウンスいたします。

また今回もポスターセッションの発表を広く募集しております。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたしま

す。セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

日 時：2020年3月14日（土）10時00分～17時30分+懇親会

会 場：横浜市立大学金沢八景キャンパス YCU

スクエア（8号館）

参加費：無料（ただし事前に参加登録が必要です。懇親会は有料で、参加費5000円（予定）を当日に申し受けます。なお学生の懇親会参加費は1000円（予定）です。）

懇親会：2020年3月14日（土）18時～20時

懇親会会場：シーガルセンター（6号館）1階食堂

春季集会は毎年、事前に参加登録をお願いしています。

○講演者、講演タイトル等のプログラムの詳細情報は、春季集会 Web サイトをご覧ください。

○事前参加登録、懇親会の申込み

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録にご

協力ください。春季集会 Web サイト内の参加申込ページより、2月28日（金）までにお申し込みください。懇親会の参加も、同ページよりお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会 Web サイト内のポスターセッション申込ページより、2月21日（金）までにお申し込みください。ポスターセッションに関する詳細も同ページをご覧ください。昨年度から、発表者への旅費の支援と表彰の審査対象は、日本統計学会会員または学生会員（ポスター発表申し込みまでに入会の手続きが完了している方）に限らせていただいています。なお、複数名のポスター発表の場合、1発表につき1名のみへの旅費支援となります。

5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

山下 智志（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第25回 日本統計学会賞

第16回 日本統計学会統計活動賞

第16回 日本統計学会統計教育賞

第14回 日本統計学会研究業績賞

第13回 日本統計学会出版賞

第34回 日本統計学会小川研究奨励賞

いずれも推薦期間は2019年12月9日（月）から2020年3月27日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ

（<http://www.jss.gr.jp/society/prize/>）からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル 5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL&FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

○各賞共通

[推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

[選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

[発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

○各賞の概要

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次の通りとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、JISD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分

野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動とし、毎年2件以内に授与する。

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。

(3) 新たな研究領域・分野の開拓。

(4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、毎年2件以内に授与する。

(1) 統計教育に関する著書、論文

(2) 統計教育の実践

(3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発

(4) 統計の普及、啓蒙

(5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野における優れた研究業績を顕彰する。

[対象範囲]

過去5年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去5年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書を審査対象とする。授賞の対象となる者は、原則、日本統計学会の正会員もしくは学生会員とする。授賞件数は毎年2件程度とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会小川研究奨励賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究、教育あるいは啓蒙)を出版した著者、編者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計

学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する図書。
- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

授賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会小川研究奨励賞

[趣旨]

若手の統計学研究を奨励する。

[対象範囲]

授賞対象者は、過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去3年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書の主たる著者とし、日本統計学会の正会員もしくは学生会員であって、推薦書を受理した時点において40歳未満の者とする。授賞対象は原則として毎年1名とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会研究業績賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び副賞として賞金及び小川

論文集を授与する。

6. 2019年6月統計検定の成績優秀者

川崎 茂 (日本統計学会会長)
山下 智志 (日本統計学会理事長)

2019年6月16日に統計検定が4試験種別で行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

準1級

最優秀成績賞 (S)：井汲景太，井筒健斗，伊藤利太郎，今井紀子，勝井将五，神戸之法，小井手祐介，小林祐太，杉田敬太郎，田中健太，田中裕貴，堀田智洋，光武麻子，渡邊和明

優秀成績賞 (A)：井戸貴大，伊藤和重，大西虎之介，大原健悟，小林宣幸，谷口領一，寺西佑太，仲井佑友輔，中村成貴，福本知也，山内悠平，山口智弘

2級

最優秀成績賞 (S)：秋松孝幸，安福一快，石田竜二，井筒健斗，伊藤利太郎，今井智章，碓井晃樹，大川勇氣，北林遼，栗原大地，田邊諠之，田村勇樹，津守俊輔，樋田愛，中井博之，中堂園尚幸，中村遼，西尾篤，藤本垂弓，増田奈保子，松

井俊樹，松林潤，森田大貴，山村宏樹，山本寛之，渡邊法之

優秀成績賞 (A)：厚見智徳，岩下凌太郎，狩野源太，小久保貴裕，小林凌河，清水宏明，高木有也，永山遼，深澤佑紀，真壁孝嘉，村田征矢，森光太郎，柳生尚志，八登浩紀，山田晃平

3級

最優秀成績賞 (S)：今井里緒，井山智資，植田望愛，大江隆，栗山咲紀，黒岩豪士，新保亮祐，竹内秀明，辻本要，鯉越裕太，野呂竜夫，山崎大毅，横澤輝，吉野真生，渡邊法之

優秀成績賞 (A)：稲垣光佑，井波孝彬，金田康宏，鎌田重頼，川口裕靖，児玉良太，佐藤正道，島田直哉，杉原真衣，中藪昂亮，中村昭子，西口純弘，部家翔太，前田佑太，増田充康，松永侑也，山内一樹，楊悠琦

4級

最優秀成績賞 (S)：富村千聖，松川真治，吉野真生

優秀成績賞 (A)：桑原里奈，竹内秀明

7. 統計検定合格者の声

川崎 茂 (日本統計学会会長)
山下 智志 (日本統計学会理事長)

統計検定 (2019年6月16日実施) の合格者よりいただいた声を掲載します。

準1級合格

データ分析の基礎力の確認のために

神戸 之法さん (会社員)

学生時代に統計検定1級を受験し、合格を頂いたことがありました。それから時は流れ、社会人

になり、データ分析の仕事に就くことができました。そんな中、部署の若手が統計検定2級を受験するという話を聞き、統計学を教える機会に巡り会いました。

準1級が新しくできたことを知り、若手の規範になれば私も準1級を受験することにいたしました。準1級を学習・受験して気づいたことは、より実務を念頭においてデータ分析の基礎を重要視する内容になってきていることです。

学習方法としましては、『統計検定 1級・準1級 公式問題集』で過去問題を解きながら、統計学の知識を復習していきました。また、主成分分析やクラスター分析等の多変量解析の範囲は機械学習の入門書を用いて、過去出題された問題の周辺知識も一緒に学習いたしました。

さらに、2級を若手に教えていたため、『統計検定 2級 公式問題集』を用いて、2級で問われる内容の復習も同時に行いました。そのため、準1級と2級で問われる内容の違いを知ることができ、学習に有効でした。

今回、無事私と若手共に合格することができ、とても嬉しかったです。若手は合格後、次は1級・準1級を目指しますと語っており、統計検定の受験が統計学の学習の良いきっかけになったようです。

時代の流れとともに、必要となる知識は変化していき、それに対応していくために基礎的な統計学・データ分析の素養を身に付けておく必要性を感じている次第です。統計検定準1級は、データ分析の基礎力を身に付けるための一つの指標、もしくは確認するための良い機会になるのではないかと思います。

準1級最優秀成績S合格への道のり（と今後）

今井 紀子さん（すうがくぶんか受講生 / シグマインベストメントスクール受講生）

私は、宇都宮大学の同窓生からの紹介で統計検定を受験し始めました。

3級→2級と統計調査士→専門統計調査士と、それぞれ初受験で合格してきました（その間に2

年がかりでRSS/JSS 試験も合格）。

出題範囲に統計検定と共通する内容もあるQC（品質管理）検定も、勉強して、4, 3, 2, 1級に合格しました。

しかし、統計検定準1級は、（新設された）2015年に受け、不合格でした。それで、私は、（統計検定サイトに掲載の）対応テキストや過去問題集（公式問題集）や「参考図書」（統計学 久保川達也先生／国友直人先生）等で勉強するのに加え、「すうがくぶんか」と、「シグマインベストメントスクール」の統計検定対策講座も受講し始めました（栃木県から東京都内に通いました）。

すうがくぶんかの先生の「準1級は、2級の範囲を完璧に理解すれば、合格はできる」等のご助言を参考に、2級の復習にも力を入れました。特に、すうがくぶんかは、先生方も統計検定を受験なさり、率先垂範です！

私は、準1級に合格した後も、優秀成績賞を目指して受けました。すると、今年、最優秀成績S合格を頂きました。準1級は、通算5回目の受験で、52歳になっていました。

私がここまで頑張れた原動力には、検定受験の仲間達が私に指導・助言・励ましをくれたことは勿論、私が1級合格という最終目標を持っていることもあります。

検定試験は、自信がなくても、合格するまで受け続けることが大切です。

私は、準1級試験の新設より前から、1級を受けていますが、まだ合格していません。今後も、1級合格を目指し、受け続けます。

ですから、1級も年に2回（6月の他の級の試験とともに）実施して頂けると幸いです。

医学論文を読み解くためと今後の医療現場を見据えて

小林 祐太さん（医師）

耳鼻咽喉科医師をしています。今回、統計検定を受けることについて、私の中では2つのモチベーションがありました。

①医学論文を読み解くうえで、得られたデータに

対する解釈の妥当性や限界について正しく評価するためには統計学の知識が必須である

② AI など機械学習が社会のあらゆる領域へ進出するなかで、医療現場もその例外では無いにも関わらず、機械学習の基礎理論や限界につき学ぶ機会がこれまでに全くなかった

我々医師にとって、恥ずかしながら統計学、もとい基盤となる数学については、腰を据えて学んだ経験がないことがほとんどです（学生時代の過ごし方は人それぞれであり、ひょっとしたら私だけなのかもしれません）。まして機械学習などは、学ぶという選択肢すら、全く頭にありませんでした。

医学的エビデンスを参照するとき、原著論文ではなく教科書や医学雑誌、ガイドラインをまず参照することがほとんどです。しかし、ときに原著論文を読み解く必要が生じ、そこでほとんどの医師にとって敷居が高くなるのが言語の壁、そして統計学的に適切な解釈ではないかと思えます。

くわえて今後、機械学習が発展するに伴い、医療現場における診断、治療方針の決定、さらに将来は手術に至るまで機械化が進むことは間違いありません。それは、人間が行ってきたあらゆる「判断」を機械に任せて正確化・均一化できる一方で、その原理をおよそ理解できていない限り、医師が医療現場に参加できる余地が無くなっていくことも意味しています。それを見据えて私が今からできること、それは統計学を基礎から学び直すことだという結論に至ったのです。

統計検定の受験は、統計学を系統立てて学ぶのに大変良い機会となりました。等級に合わせて徐々にレベルアップでき、不足する知識も明確に浮き彫りとなるため、学ぶべきテーマに迷わず進めていくことができました。ぜひ1級合格まで目指したいと思えます。

AI を活用する上で必須の技術を身に着けることができる

寺西 佑太さん（富士通九州ネットワーク
テクノロジーズ株式会社）

私が会社で担当している業務の内容は「AI を活用したお客様の課題解決」です。

業務を進める上で、私が最も強みとしているのが、大学時代に専攻していた統計学の知識です。例えば、以下の場合に統計学は非常に役立つと感じており、会社でも統計検定の受験が推奨されています。

- ・AI の性能を決める、データの質の見極め
- ・データに対する適切な前処理の選択
- ・適切な AI の評価方法の選択
- ・最新の AI の論文の読解

今回は、統計学の知識の補強、復習を目的として、統計検定準1級を受験しました。

受験前よりも幅広い統計学の知識を身に着けることができたため、目的を達成することができたと思えます。

受験勉強は過去問を中心に行いました。

準1級の問題は、良問（丸暗記では対応が難しく、きちんと理解していないと解けない問題）ばかりでしたので、過去問を解くことと、間違えた分野を参考書で補強することを繰り返しました。この反復により実力がぐんぐん上昇していきました。

過去問がそのまま出たら100点をとれるレベルになるまで、繰り返し解くことで、成績優秀者賞評価Aを頂くことができました。

次はさらなる高みを目指して、1級受験に向け取り組んでいきたいと思えます。

データサイエンス領域について体系立てて学ぶことができる

伊藤 和重さん（東芝情報システム株式会社）

私はSIソリューション事業部に所属しマネージメント業務に従事しています。所属部門では数年前からデータ利活用に関する相談が増え、工場における歩留まり改善や予知保全の他、製薬会社

や社会インフラ会社等に向けて統計モデリングや機械学習を活用したデータ分析・予測サービスを提供しています。そのように取巻く状況が変化していく中で、データサイエンス領域について改めて体系立てて学びたいという思いが強くなりました。統計検定はデータサイエンティスト協会のサイトで知り、スキルレベルの評価指標の一つとして活用することにしました。

独学で初心者向けの本からスタートしてベイズ統計モデリング、異常検知、時系列分析、計量経済学等色々なテーマの本を読みました。統計検定向けには公式問題集と特に次の書籍が有用でした。

- ①よくわかる心理統計（山田 剛史，村井 潤一郎）
- ②心理統計学の基礎（南風原 朝和）
- ③心理統計学ワークブック（南風原 朝和 他）
- ④プログラミングのための確率統計（平岡 和幸，堀 玄）
- ⑤統計学入門（基礎統計学 I）（東京大学教養学部統計学教室）

また、SVM 等上記の書籍でカバーされていない機械学習関連項目については、社内の勉強会参加とオンライン講座「Coursera の機械学習コース（Andrew Ng）」修了によりカバーしました。

昨今、業務の合理化や新たな付加価値の創出といった顧客の課題解決には、ビジネス（ドメイン）の理解とエンジニアリング力だけでなく、データサイエンス力の重要性が増していると感じています。私にとってデータサイエンス領域はこれまでの業務の延長線上にはなく習得のハードルが高かったのですが、当検定をはじめ前述の良書やオンライン講座等恵まれた学習環境のおかげで効率よく学ぶことができました。今後も更なる発展を目指して精進したいと思います。

2級合格

統計学のメガネを通してデータを見ることは衝撃的で感動的なこと

西尾 篤さん（大阪大学法学部2年）

統計検定を受験したきっかけは大学の一般教養の授業でした。数学が嫌いではなかったのもあり、

なんとなく履修してみると、その面白さに惹かれました。特に検定の考え方が魅力的だと感じました。統計学の知識なしにデータを見ても、大体の傾向しか読み取れませんし、それがどの程度もってもらいたいのか分かりませんが、統計学のメガネを通して見ると、データに関するある主張が確率を通じて定量的なものとしてもっともらしさを把握できるというのは、高校数学までしか知らない私にとってはとても衝撃的で感動的なことでした。その衝撃が忘れられなかったこともあり、自分で統計学の勉強を始めてみることにしました（データサイエンスが流行っているというのも理由の一つではありますが）。勉強をしていく中で習熟度のメルクマールとして統計検定を受験しようと思いい、受験して今に至ります。当日は幸いにも試験が上手くいき、最優秀成績賞という光栄な賞をいただくこともできました。

さて、統計学というのはとても役に立つ学問だと思います。その有用性は直接データサイエンティストとして働き知識を運用する、ということがない人であっても変わりません。役に立つ例として、初歩的な記述統計で恐縮ですが、算術平均（以下平均）を取り上げてみようと思います。平均というのは分布の形に大きな影響を受ける訳ですが、統計学を勉強する前の自分だったら分布の形がどのようなものであれ、平均が分布の代表値として意味のある値だと信じて疑っていませんでした。しかし、勉強した後の自分なら、「その統計量は本当に意味のある値だろうか。」「五数要約をして分布の形を分析して、それによつては代表値として平均よりも中央値を使った方がいいんじゃないだろうか。」と、データに対して批判的な見方ができます。これが統計学を学ぶ意味であり、役に立つということだろうと思います。そのような目を統計検定を通じて少しでも養うことができたのではないかと思います。

統計の魅力を伝えることのできる数学の教師になりたい

森田 大貴さん（東京学芸大学教育学部4年）

自分は大学の教育学部数学専攻科に所属し、将来は数学の教員になりたいと考えています。2022年度から学習指導要領が大きく改訂され、高校生から仮説検定の考えを学ばなくてはならなくなります。しかし、自分が高校生のときに仮説検定の考えを学んだことがなく、大学の授業でも解析や代数に比べ、統計は苦手な分野でした。このままでは教員になった際、十分なレベルの統計の授業ができないのではないかと心配になり、しっかりと学びなおそうと思ったことが統計検定を受けるきっかけです。

勉強の際はWEBサイト「統計学の時間」を見て、基礎的な知識をノートに整理し、十分知識を蓄えたところで、「統計検定2級 公式問題集」を用いて過去6回分の問題を時間を計って解きました。最初は6割程度しか正解できませんでした。徐々に正答率を上げ、最後には8割近く正解することができました。

そして本番では順調に問題を解いていきましたが、ときどき導いた解答が選択肢の中にないために混乱しました。練習より時間はかかりましたが、それでも余裕を持って終わらせることができ、自己採点では35問中33問正解という自己最高記録を出してS合格することが出来ました。

統計は授業を行う側にとって話の広げ甲斐があり、面白い分野です。しかし、それを広げていくためには背景となる統計の知識が必要です。今回の検定はなぜこのような手順で数値を求めるのか、そんな視点を得ることができると共に、自分も統計を扱うことができるという自信を私にもたしました。これは私にとって大きな成果であると言えます。今のところ、準1級を受ける予定はありませんが、2級で学んだ内容は十分に生かし、統計の魅力を伝えることのできる教師になりたいと考えています。

勉強した統計の知識を今後の診療に役立てていきたい

藤本 亜弓さん（島根大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科）

普段は日常の臨床業務を中心に血液内科医として働いておりますが、勤務終了後や休日の空き時間に、主に血液疾患に対する臨床研究の解析を行っています。データ解析ソフトはSTATA ver.14を用いていますが、使用する解析方法は対象や目的によって異なり、状況に応じた様々な統計の知識が必要となります。

かつては統計に対して苦手意識を持っており、知識もありませんでした。同医局の統計に造詣の深い上司S先生に日々指導を受け、最近は少しずつ苦手意識がなくなってきましたが、STATAの解析結果で理解できない部分がしばしばありました。S先生から統計検定の存在を聞き、自らの知識の向上のためにこの度受験を決意しました。

日常業務が多忙なため、勉強は試験2週間前からとなってしまいました。まずは勤務後や移動時間などに公式テキストを読み始めましたが、難しい計算式が羅列しており、最初は非常に取っ付き難く、受験を諦めることも考えました。しかし、不明な点はその都度インターネットなどで調べて理解を深めていくと、今まで解析結果で分からなかった部分も分かるようになり、楽しく思えるようになりました。過去問に関しては時間がなかったため、2年分しか解くことができませんでした。この度運良く最優秀成績賞をいただき、嬉しく思っています。今回勉強した統計の知識を今後の診療に役立てていきたいと思っております。インターネットサイトは統計WEB、書籍はバイオサイエンスの統計学がおすすめです。

統計学の知識と薬学部出身であることを活かして生物統計家不足の問題の解決に寄与したい

小久保 貴裕さん（東京大学薬学部4年）

私が統計学と出会ったのは大学2年生の時です。学部の生物統計学の授業で、医薬品の臨床試験や生物学の実験などで得られる曖昧なデータも統計

学の手法を用いれば意味のある解釈ができることに感動し、学部の勉強と並行して統計学を勉強することを決意しました。しかし、漫然と独学していたのではモチベーションの維持が困難です。そこで統計検定の合格を目標に決めました。

勉強を始めた当初の私には、高校の「データの分析」程度の知識しかありませんでしたので、まずは「完全独習 統計学 (ダイヤモンド社)」を読みました。とても分かりやすいので初学者にはお勧めです。この本の内容がだいたい理解できたなら、統計検定2級の過去問を解いていきました。解いていてわからないところがあれば解説・テキストを読む、というように、過去問とテキストを行ったり来たりしながら勉強しました。ただテキストを読むだけの勉強だと、その知識を実際にはどう使うのか身をもって習得することができません。そのため私は、このような過去問を中心に据えたアウトプット重視の勉強をしました。新たな知識を得たら、忘れる前に具体的にアウトプットしてみることで、理解も記憶も深まると思います。

現在私は、統計検定1級合格のために勉強していますが、その実際の使い方も身に付けるため、統計学に関するプログラミングも並行して勉強しています。そして、統計学の知識と薬学部出身というバックグラウンドを活かして、現在の日本の製薬業界で重大になっている生物統計家の不足という問題の解決に少しでも寄与できればと考えております。

統計検定で身についたデータを見る力

真壁 孝嘉さん (IT エンジニア)

今年から機械学習やデータ分析を業務で行うようになったこともあり、データ分析に関する基礎力を身に付けようと思ったこと、それが統計検定を受験したキッカケです。現場では機械学習やディープラーニングに関するフレームワークを使って、モデルを作ったり、データ分析を行ったりしていますが、理論の部分からしっかりと理解出来ているかと言えば怪しい部分も多々ありました。既成のフレームワークを利用して、何となくプロ

グラミングを書けばそれらしい結果が返ってくる、そういった作業が中心になりがちでした。

そう言った状況を打破するためにも、機械学習や統計に関する数学をもう一度基礎から見直そうと思い、まずは大学レベルとなる統計検定の2級取得からスタートしていこうと思ったのが、今年の初め頃でした。

当初は、最早習ったかどうかすらも分からない知識のオンパレードで、初めて聞く様な理論や、知識ばかりだったことを覚えています。しかし、そういった中でも統計学が自身に与えてくれる驚きや発見は日々新鮮なもので、全く飽きずに学習を続けることができましたと思います。

数学というと、どうしても「抽象的」「とっつきにくい」「難しい」「なんの役に立つのか不明」みたいなイメージが世の中一般のイメージだと思います。かくいう私も理系出身ですが、純粋数学は他の学問に比べとっつきにくい印象がありました。しかし、統計学に関しては、その様なこともなく、むしろ現在の業務でもその考えや手法は、かなり使っていますし、機械学習や統計に直接関する仕事ではないとしても、おそらくかなり広い分野で応用の効く学問だと思います。

難しい数式を一つ一つ眺めていくのは、厳しいことですが、それが示している結果は、日常の感覚と一致しているし、むしろその感覚が数式で美しく表されているのを知ると、数学が苦手な私でも思わず感動してしまいます。そういった発見を与えてくれる統計学の入り口にもなる統計検定を受けてみるのは、一つの手かと思います。

3級合格

統計学の体系を学ぶために3級を受験

前田 佑太さん (会社員)

昨今のビッグデータやディープラーニング、また勤労統計調査などの国の方針に関わる調査での不正から統計に興味と意欲が増してきて勉強を始めた。

たまたまググっていたら統計検定の存在に気付けたのと、社内認定される対象資格だったのもあ

り受けることにした。

基礎的な用語、概念の定義、基礎知識を持っておかなければ簡単な社会に見え隠れする問いにすら気付けないと思い、体系を学びたいので3級を受験した。

以前から気にはしていたが、テレビ等を見ているとグラフの単位が2つを見比べているのに単位が違うなどの印象操作が散見されたので、リテラシーを身につけ詐欺などに引っかからないようにしたい人なんかも勉強するのにオススメの学問である。

今後は2級も勉強して合格を目指したいと思う。

統計検定3級で学んだことは仕事やそれ以外でも大変役立つ

部家 翔太さん（株式会社システムサポート）

＜統計検定を受験した動機＞

現在データ分析の業務に携わっており、業務以外でも勉強する必要があると感じたため統計検定を受験しました。

＜受験にあたっての準備＞

公式の教科書と過去問題集を買って勉強しました。過去問題集をひたすら解いて、間違えた問題又は正解していても解答の根拠が分らなかった問題は過去問題集の解説を見たり、派遣先のプロパー社員の方に質問したりして不明な部分を理解し

ていきました。

＜受験した感想＞

業務の大半がデータの基礎統計量の取得や顧客に対してデータの説明をするための資料作りなので統計検定3級で覚えたことが大変役に立っています。また3級の試験範囲の内容はデータ分析に携わっていなくても知っておけばなにかと役に立つと思いましたので、今後社内のメンバーにも取得を推奨していきたいと思いました。

＜今後について＞

現在機械学習系の業務に携わっているため統計検定2級合格を目指しています。3級に比べて難易度が格段に上のため勉強に苦勞しておりますが、なんとか11月に合格できるよう頑張りたいと思います。

＜最後に＞

統計検定3級の勉強は主に勤務先のビルにあるカフェでやっていたのですが、勉強中に「私も統計検定2級を受けるために勉強しています。3級頑張ってください。」と励ましてくれたイケメンの店員の方に感謝しています。彼には2級勉強にあたって参考になる書籍やHPの情報をいただきしており、今その書籍やHPを見たりして2級を勉強しています。その恩に報いるためにも11月に2級合格をしたいと思っています。

8. 理事会・委員会報告（2019年11月8日）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2019年11月8日（金曜日）午後6時00分～午後7時00分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス3号館9階3-916教室
理事の総数 13名 出席理事の数 11名
監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：川崎茂会長，山下智志理事長，伊藤伸介（庶務），玉置健一郎（庶務），吉田靖（会計），吉羽要直（会誌

編集和文），小池祐太（広報），稲葉由之（大会・企画・行事），松田安昌（国際），前田忠彦（渉外），瀬尾隆（渉外）（以上11名）

監事：岩崎学，中西寛子

欠席：青嶋誠（JJSJ），汪金芳（国際），赤平昌文（監事）

第1議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

学会賞各賞の候補者推薦を開始することを確認した。なお、推薦受付期間は2019年12月9日より2020年3月27日までとし、会長が推薦する選考委員は次回社員総

会において承認を得ることとなった。

第2議案 社員総会招集の件

2020年3月13日18時から早稲田大学で社員総会を開催することについて、承認を得た。

第3議案 名誉会員の承認について

以下の会員の名誉会員への推薦について承認を得た。

- ・森棟公夫会員（京都大学名誉教授、椋山女学園理事長）
- ・赤平昌文会員（筑波大学名誉教授、日本統計学会前会長）
- ・前川功一会員（広島大学名誉教授、広島経済大学名誉教授）

第4議案 会員の入退会

山下理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、承認を得た。

第5議案 その他

JJSDと和文誌の委託業務を競争入札にしないことについて、理事会で承認を得た。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2019年11月8日（金曜日）午後7時00分～午後9時00分

場所：早稲田大学早稲田キャンパス3号館9階3-916教室

出席：理事11名、監事2名、計13名

川崎茂会長、山下智志理事長、伊藤伸介、玉置健一郎、吉田靖、吉羽要直、小池祐太、稲葉由之、松田安昌、前田忠彦、瀬尾隆、岩崎学（監事）、中西寛子（監事）

欠席：青嶋誠、汪金芳、赤平昌文（監事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

報告事項なし

2. 和文誌編集委員会

吉羽委員長より、資料に基づき、49巻2号の編集状況と、50巻1号の特集企画の予定について報告がなされた。また、執筆要領の修正について報告がなされた。

3. 大会委員会

報告事項なし

4. 企画・行事委員会

稲葉委員長より、第14回春季集会の準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

① 山下理事長より、資料に基づき、JJSDアウトソーシングに関する随意契約について報告がなされた。

② 山下理事長より、第24期学術の大型施設計画・大

型研究計画に関するマスタープラン「学術大型研究計画」に対して、北村行伸先生（一橋大学）宛てに賛同書を作成した旨の報告がなされた。

6. 広報委員会

小池委員長より、会報181号が刊行されウェブページにも掲載されたことの報告がなされた。

7. 国際関係委員会

松田委員より、CSA-KSS-JSSのジョイントセッションがソウル大学で実施されている旨の報告がなされた。

8. 渉外委員会

① 前田委員長より、統計関連連合大会におけるBrockwell先生の講演キャンセルに伴う事務処理について報告がなされた。また、松田国際関係委員より補足説明がなされた。

② 山下理事長より、資料に基づき、JJSDに関するスプリングとの契約について報告がなされた。

9. その他

玉置庶務委員長より、資料に基づき、2018年度JINSE活動報告の報告書について報告がなされた。

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

山下理事長より、資料に基づき、12月14日に春季集会準備会議を開催し、内容について決定することが承認された。

5. 庶務委員会

① 山下理事長より、資料に基づき、調達に関する細則第4条（1）について、「一件の予想価額が20万円未満であるとき。」を「一件の予想価額が100万円未満であるとき。」に改正することが提案され、承認された。

② 山下理事長より、資料に基づき、横幹連合の理事・監事候補の推薦について、継続審議とすることが提案され、承認された。

6. 広報委員会

小池委員長より、「細谷賞」と「ISI東京大会記念奨励賞」受賞者を学会Webページに掲載することが提案され、承認された。

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. その他

川崎会長より、会員増加の方策について問題提起がなされ、意見交換を行った。

今後の予定

2019年12月14日（土）12：00 春大会準備会議：早稲

田大学早稲田キャンパス 3号館 9階3-914教室

2020年2月1日（土）12：00 理事会：早稲田大学早稲田キャンパス 3号館 8階3-812教室

2020年3月13日（金）18：00 社員総会：場所未定

2020年3月14日（土）12：00 春季集会：横浜市立大学金沢八景キャンパス YCU スクエア

9. 学会会員であることのメリットとは？

川崎 茂（日本統計学会会長）

昨年9月、当学会の役員・代議員協議会で、近年、日本の多くの学会で会員数が減少していることが話題になりました。毎日新聞の記事によると、過去10数年間では、調査対象となった学会の7割で会員数が減少していますが、幸い、当学会は会員数の増加した数少ない学会の一つだと報じられていました。もっとも、当学会の正会員数を調べてみると、2000年8月が1,334名、2019年8月が1,404名なので、胸を張ることができるほどの実績でもなさそうです。

現在は、社会における統計学・データサイエンスへの関心・需要が高まっており、当学会にとっては追い風となっているものと思いますが、それがいつまでも続くとは限りません。会員数は多いほどよいなどと単純に考えるべきではないことは言うまでもありませんが、会員数は学会の活動状況を表すバロメーターです。仮に会員数が減少すると、運営基盤が弱体化し、活動が停滞するおそれもあります。そのような事態に至らないよう、また、統計学がさらに発展し、社会に普及するよう、当学会としても安定的に会員を確保する必要があります。

学会に入会する動機は人によって異なると思いますが、会員資格のメリットは大切な要因と言えます。このことは、海外の学会では強く意識されているようです。アメリカ統計学会（ASA）、イギリス王立統計協会（RSS）のウェブサイトを見ると、いずれも“Benefit”というページがあり、

そこには会員となることの「^{りやく}ご利益」が具体的に紹介されています。

当学会の長年の会員には、メリットを理解されている方が多いでしょうが、これから入会しようと考えている人には、必ずしも分かりやすすくないように思います。そこで、会員のメリットにどんなものがあるか、ここで主なものを4点に分けて整理してみたいと思います。

① 研究集会・研究活動への参加

まず重要なのは、学会の開催する研究集会への参加だと思います。これにより、会員相互の交流を通じて、自らの研究を高めていくことができます。主な研究集会としては、日本統計学会春季集会（3月）や統計関連学会連合大会（9月）があり、会員は研究報告を行うことができます。春季集会は参加費が無料ですが、連合大会は有料であり、会員に対して参加費の割引があります。春季集会のポスター発表を行う学生会員に対しては、旅費等を補助する制度もあります。

また、会員は、学会に設置されている研究分科会等に参加して、他の会員と共同研究・研究交流を行う機会が得られます。

② 学術誌の出版・購読

当学会では、1970年以来、和文誌「日本統計学会誌」を発行しています。今年は創刊50周年に当たります。英文誌については、従前から刊行して

いた当学会の英文誌を継承する形で、2018年から統計関連学会連合が Springer Nature 社から“Japanese Journal of Statistics and Data Science” (JJSD) を刊行しています。連合及び当学会では、今後、JJSD を知名度の高い、影響力のある学術誌に育てていきたいと考えています。

会員は、これらの論文誌を通じて、自らの研究を世に広めることができます。また、会員は、両論文誌を無料で購読することができます。

なお、JJSD は、発刊当初の2年間はオープンアクセスとされ、会員以外であっても無料で閲覧できましたが、2020年からはクローズドとなりました。このため、会員ごとにアクセス権を設定することが必要となりました。当学会では、2019年12月下旬、全会員に対してアクセスコード (Association Code) を通知しました。この通知は、会員全員に郵送されたほか、メールアドレスが事務局に登録されている人には、メールでもお知らせしました。万が一、通知をまだ受け取っていない会員の方は、事務局にその旨を伝えていただくようお願いします。

③ 表彰・コンペティション

当学会では、統計学の研究・普及に関し大きな貢献をした個人に日本統計学会賞など、いくつかの賞を設け、統計学・統計分野における優れた研究や活動を行った個人や団体を表彰しています。

若手会員に対しては、質の高い研究・発表を行うことを奨励しています。毎年、連合大会ではコンペティション・セッションを、当学会春季集会ではポスター・セッションを開催し、優れた発表を行った会員を表彰しています。また、若手会員による国際的な場での発信を奨励するため、ISI WSC (World Statistics Congress) で発表を行う若手会員を対象として奨励賞を授与し、WSC 参加旅費に充当できる賞金を贈っています。

このほか、当学会では、日本学術振興会などの機関・団体等から表彰の候補者を推薦するよう依頼を受けることがあります。そのような場合には、理事会等において検討し、推薦を行っていま

す。

④ その他のメリット

当学会では、2015年から、学会の JSS-Springer 委員会編集の下、Springer の英文書籍のシリーズ JSS Research Series in Statistics を刊行しています。会員は、このシリーズの一環となる書籍を刊行することができます。(刊行には、編集委員会による審査を経る必要があります。)

また、本年からは、月刊誌『統計』(日本統計協会発行)の会員向け特別割引を利用することができるようになりました。(詳細は「12. 学会事務局から」の項をご参照ください。)

以上のほかにも、様々なメリットがありますが、まだ十分に網羅できていないものと思います。

ここでは、目に見える直接的なメリットを整理してきましたが、そのほかにも、学会には目には見えにくい「ご利益」もあります。それは、学会の信用力・ブランド力のようなものであると思います。

日本統計学会は、昭和6年(1931年)に創設された、統計学に関して最も長い歴史を有する学術団体です。当学会が社会における統計学の意義・役割を広く発信していくことは、社会からの統計学に対する信頼・期待を高める効果があるものと思います。すなわち、当学会は、統計学の「ブランド価値」を高める役割を担っており、会員は、そのような学会に所属することによって一定の社会的な信用が得られるものと思います。

当学会の正会員は、定款に「本法人の目的に賛同して入会した個人」と規定されており、会員は必ずしも「ご利益」を期待して入会するのではなく、あくまでも「目的に賛同」することが要件とされています。その意味では、会員はメリットを享受するだけの立場ではなく、学会の目的である「統計学の研究及び普及を促進し、その発達に貢献する」ことに参画していただくことが期待されているものと思います。

他方、多くの学会において会員数が減少してい

る現実を考えると、当学会としては、絶えず会員であることのメリットを高めることを通じて、会員の確保に努め、それによって、個々の会員及び学会全体として、統計学の発達・普及に貢献していく必要があると思います。

会員の皆様におかれては、当学会会員となるのにふさわしい研究者、実務家、学生の方をご存じでしたら、そのような方に、ここで述べたメリットを紹介して、入会を勧めていただければ幸いです。

私としては、今後、理事会などの場を中心として、会員のメリットを高め、それを多くの人に分かりやすくお伝えするにはどうすればよいか、皆様とともに検討していきたいと思います。理事の皆様はすでに通常の業務で多忙であり、多くの課題に対応するには限界がありますが、少しずつでも工夫して対応できればと思います。会員の皆様には、このような問題について、アイデアやご協力などをいただければ幸いです。

10. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●日本統計学会 編『改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定4級対応 データの活用』東京図書株式会社, 2019年12月, 2000円+税

内容紹介: 中学卒業までに身につけたい統計表やグラフ、確率、調査・実験の基礎などに関する学習の理解度を測る統計検定4級に対応した公式認定テキスト。

11. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

●白石高章, 杉浦洋, 松田眞一『Pairwise Multiple Comparisons: Theory and Computation』Springer, 2019年10月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: すべての平均相違に関する多重比較法として、数理理論により最良の手法を新たに導いている。多重比較法に必要な多重積分の解法として、sinc 近似に基づく高精度の数値計算法を解説している。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2019年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカード

での学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。
(<https://www.jss.gr.jp/fec/>)。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類

が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

鍋谷 清治 名誉会員

入会承認

芦川敏洋, 阿部穂日, 大西健, 小淵智之, 小橋晶,
志村光弘, 田中雅行, 当真賢也, 野口貴宏, 八木
文香, 渡邊弘己 (敬称略)

退会承認

上林敬宗, 鈴木武, 田中勇輔, 濱崎俊光, 原田優
子, 別府秀一, 南宏典, 渡辺優 (敬称略)

月刊誌「統計」の会員向け特別割引

学会会員は、一般財団法人日本統計協会の発行する月刊誌「統計」を特別割引価格で購読することができるようになりました。年間購読料は、通常価格の15%引きとなり、雑誌は、申込者の指定する住所（日本国内）に毎月送付されます。

特別割引購読申込書は、学会の次のサイトに掲載されています。希望する方は、ダウンロードして所定の事項を記入し、一般財団法人日本統計協会に直接お申し込みください。

https://www.jss.gr.jp/relate/toukei_discount

現在の会員数（2019年12月20日）

名誉会員	14名
正会員	1,414名
準会員	3名
学生会員	65名
総計	1,496名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

●来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

●博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

●求人案内（教員公募など）

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月を

お知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介（叙勲・受章、各種受賞等）

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒153-8914 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院数理科学研究科

小池 祐太 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp

